

発信日: 2006年6月14日

TOPIX 以外にも広がる国内株式ベンチマーク パッシブ運用で大きくシェアを伸ばしたラッセル野村プライム

(『2006年ラッセル国内株式ベンチマーク調査』より)

この度、ラッセル・インベストメント・グループは、日本株式ベンチマークの利用動向調査を実施しました。この種の調査はわが国では過去に例がなく、年金など国内機関投資家向け日本株運用商品に利用されているインデックスの顔ぶれ、運用資産額、構成割合、過去1年における変化などが今回始めて明らかになりました。

調査にご協力いただいた運用機関は国内外計69社。その運用資産総額は、64兆1,014億円でした(2006年3月末)。

当調査では、日本株運用において約30種のベンチマークの利用が確認されました。サブ・インデックスを含めて最も多くの種類が利用されていたのはラッセル野村インデックスで、カスタマイズされたものを除いても、その種類は14種に及んでいます。これに次いでサブ・インデックスの採用が多かったのはTOPIXで、TOPIX 1000 FLOATなど、複数のサブ・インデックスの採用が見られました。

シリーズとして最も運用資産額が多かったのはTOPIXで、総計53兆7,019億円(構成割合83.80%)でした。これに次いだのがラッセル野村インデックスで、総計5兆4,490億円(構成割合8.55%)。第3位がMSCI(運用資産額1兆8,115億円、構成割合2.86%)、第4位がFTSE(運用資産額1兆4,697億円、構成割合2.32%)となりました。

過去1年で最もシェアを拡大したのはラッセル野村インデックスで、構成割合にして3.68ポイントの増加を示しました。逆に最もシェアを低下させたのはTOPIXシリーズで、構成割合にして-4.45ポイントという数字になりました。

運用資産をパッシブ運用とアクティブ運用とに分けて見ると、パッシブ運用ではラッセル野村プライムの台頭、アクティブ運用ではスタイル・ベンチマークの利用状況が注目されます。

パッシブ運用におけるラッセル野村プライムの運用資産額は2兆6,698億円(構成割合9.39%)。TOPIXの23兆6,957億円(構成割合83.37%)とは大きな差がありますが、この1年で構成割合を8.64ポイントと大幅に拡大している点が光ります。

アクティブ運用においては、市場全体を代表する「市場ベンチマーク」に対して、特定の規模・運用スタイルを代表する「スタイル・ベンチマーク」利用の進展状況が注目されました。今回の調査により、過去1年はスタイル・ベンチマークの利用に特段の進展は見られないものの、その利用が既に2兆6,559億円、構成割合にして7.44%に達していることが分かりました。その内容を見ると、まず規模別では、小型・中型のベンチマークが市場規模に比して相対的に割合が高くなっています。また運用スタイル別では、バリュー(割安株)ベンチマークがグロース(成長株)ベンチマークよりも割合が高くなっています。

以上の調査結果の詳細は『2006年ラッセル国内株式ベンチマーク調査』の報告書にてご覧いただけます。

以上

ラッセル・インベストメント・グループについて

ラッセル・インベストメント・グループは、「マルチ・マネージャー運用のグローバル・リーダー」として今日世界 44 カ国で総合的な資産運用管理サービスを提供しています。ラッセルが提供するサービスは、グローバルな運用会社調査をベースに、資産運用コンサルティング、資産運用サービス、売買執行管理サービス、オルタナティブ投資サービス、Russell 1000[®]、Russell 2000[®]、Russell 3000[®]、Russell/Nomura 日本株インデックス等のインデックスの開発など多岐にわたります。ラッセル・インベストメント・グループの創立は 1936 年。現在当グループが提供する資産運用コンサルティング・サービスの対象資産総額は 270 兆円^{*}、またマルチ・マネージャー運用の資産総額は約 19 兆円^{**}となっています。なお、1999 年よりノースウェスタン・ミューチュアルが当グループの親会社となっています。詳しくは、www.russell.com をご覧ください。

(※ 2005 年 9 月末現在 ※※ 2006 年 3 月末現在、グループ合算)

ラッセル野村日本株インデックスについて

「ラッセル野村日本株インデックス」は、1995 年にラッセル・インベストメント・グループと野村証券によって開発された株式市場インデックスです。東証 2 部、大証、名証、東証マザーズ、大証ヘラクレス、JASDAQ などの全上場銘柄を広く網羅しており、浮動株修正時価総額で約 98% を代表する「Russell/Nomura Total Market インデックス」を中心に、大型/小型といった規模別や、グロース/バリューの投資スタイル別に 26 種類のサブインデックスが含まれます。インデックスの構成銘柄は、各銘柄の浮動株修正時価総額による公平かつ完全なランキングに基づいて決定されており、年一回 12 月第一営業日に構成銘柄の定期入れ替えが実施されます。

【本件に関するお問い合わせ先】

ラッセル・インベストメント・グループ
企画・広報部門 田中 裕子
Tel: 03-5411-3693
E-mail: Tokyo-RIJ@russell.com

ラッセル・インベストメント・グループは世界中の拠点を通じて事業を展開しています。
「ラッセル・インベストメント・グループ」および「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニー及びその子会社等の総称です。

調査概要

調査目的	国内機関投資家が国内株式に投資する際のベンチマークの利用状況に関する情報を収集・集計・開示し、機関投資家や運用機関などによる国内株式ベンチマークの今後の有効な利用に資すること。												
調査対象のベンチマーク	スタンダード&プアーズ、大和総研／大和証券 SMBC、東京証券取引所、日興フィナンシャル・インテリジェンス、日本経済新聞社、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル、ラッセル／野村証券、FTSE などが提供するベンチマーク。このほかのベンチマークがある場合は「その他」として他のベンチマークの記載を依頼した。												
調査内容	日本の機関投資家向けに運用を行っている日本株式についての2006年3月末および2005年3月末における各ベンチマーク別の運用資産額（公募投信およびETFは除き、年金が行う自家運用の資産は含む。パッシブ運用とアクティブ運用に分けて運用資産額を収集）。												
データ提供依頼先および回答状況	国内外で日本の機関投資家向けに日本株式運用を行っていると思われる99の運用機関等（国内74機関、海外25機関） <table border="1" data-bbox="614 884 1356 996"> <thead> <tr> <th>運用機関の所在地</th> <th>依頼先数</th> <th>回答数</th> <th>回答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内</td> <td>74</td> <td>58</td> <td>78.4%</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>25</td> <td>11</td> <td>44.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>回答率：</p>	運用機関の所在地	依頼先数	回答数	回答率	国内	74	58	78.4%	海外	25	11	44.0%
運用機関の所在地	依頼先数	回答数	回答率										
国内	74	58	78.4%										
海外	25	11	44.0%										
回答運用資産総額 (2006年3月末)	64兆1,014億円												